

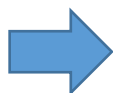


一学部（和歌山病院入院生）

「安心感から」

自立活動の取組を紹介します。

小学部低学年時のKさんは、触れられると過緊張になり、その後の授業がなかなかできない状況でした。関わられた先生方は「働きかけを適切に受け止めてもらうには」「感覚をもとに活動の場を広げた」と、目標を持ち取り組まれました。触れる前の声かけ・温めた手・優しくゆっくりと・不快なときは一旦やめる・無理はしない・言葉かけをしながら、肩から腕、手指、背中、腰、足、顔と触れられる経験を積み、全身を預けられるようになり、外への活動につながっていきました。先生方の丁寧で優しい関わりに、安心感を持ち、身をゆだねられる中で、活動に取り組んでいる様子を窺えました。



7月9日（金）に、二学部中学生は、自立活動の時間に、南海バスを利用して、逢母磯に行き、シーグラス拾い（ものづくり製品の材料です）、潮だまりの生物の観察や釣りを楽しみました。

中学部全員の共通の目的は、ものづくり製品の材料を探すことでした。また、中1の目的は、「事前学習やこの活動を通して、学校生活に期待感を持ち、前向きに登校することができるようになる。」、中3は、「公共交通の利用や野外活動を通して生活経験を広げ、自信を持つことができる。」でした。学年のカラーが出ている目的の設定です。

取り組み中の生徒の声です。「楽しいか、そうでないか、・・・暑いから楽しくない」、「体力、やばい」、「磯の生き物はすごいですね」などが聞かれたそうです。また、前線の雲の切れ目を発見して写真を撮ったりする生徒もいたそうです。



この活動が、「明日から毎日、学校に来る」、「この活動ができたから、苦手なことに挑戦する」ようなことには、すぐには結びつかないとしても、みんなと活動をとともにできたことが、これらの土台として心に刻まれた一日となっていることと思います。

二学部（通学生） 中学部

校外学習